

市長懇談会 小野申人と いきいきトーク

市民の皆さんの意見を直接市長が聴き、今後の市政に活かすことを目的に、市長懇談会「いきいきトーク」を開催しました。

1月10日から2月18日の間、

コミュニティ・スクールの活動に中心に関わっている市内各学校・保護者・地域の皆さんと10会場で行いました。学校や地域に関わっているからこそ分かる貴重な意見をいただきました。参加していただいた皆さんには改めてお礼を申し上げます。



この懇談会で参加者の皆さんからいただいたご意見の一部を紹介します。

子育て・教育

▽地域の取り組みができているところは、子どもの気持ちが高まっている。地域の環境が子どもを伸ばす実感できる。

▽法律が変わり、今後は日本語が分からない外国人の子どもが増えてくる。教育のセーフティネットが必要。

▽高校の体育祭を小学生の時から見に行くなど、元の高校に行きたいと思わせるアピールが必要。

▽保幼小と連携することで、より質の高い教育になっていくと感じた。

▽4月からネウボラが始まると聞いたが、どんな形で進めるのか。

▽統計的にDVやネグレクトなどは増えている。地

域で相談する人がいれば違ってくる。相談できる体制が必要。

▽いじめは、いかに早く気付くかが重要になる。学校、地域、保護者がリーダーを張って大勢で見ることが必要。

▽教育の素晴らしさを市外にしっかり発信して、企業と教育を府中市の売りにしていくようにしたい。

▽学校で子どもたちが学ぶ中身を、地域の人にもっと知ってもらい、また、地域だけでなく企業ともつながりを作り、子どもたちに府中の企業のことをもっと知ってもらいたい。

▽府中市では出産するところも夜間の小児科もない。東京には、夜間に医師が自宅へ診療に来てくれるファストドクターというものがある。府中市でもあったらと希望する。

地域づくり

▽今まで大事にしてきたものを磨きたいという考え方が大切だと思う。今ある資源をみんなで作る、

勉強し、再発見、掘り起こしをすることで、子どもに伝えていきたい。

▽子どもも少なければ保護者も少ない。資源回収などは地域で手伝っている。

▽子育て世代が減り、消防団のなり手がいない。また、民生委員のなり手不足も心配している。

▽上下地区には光回線がない。ネットという基盤がなければ若い人は来ないため、整備が必要。



防災

▽熊本の震災跡を視察に行き、行政も災害に遭って

いる中で、個々の地域で共助・さらに個人で自助、自分のこと自分でするという意識付けが必要と知った。

▽今回あったような災害が今後もあるという意識改革をしていかないといけない。

▽町内会での訓練が必要。また、学校でされている防災教育が実際にとってもいい。

▽避難場所について、遠くに行けない場合がある。地域とよく検討してほしい。

▽災害のときに障害者の方をどこへ避難させるか、どういった手段で支援をするか。弱者に対する手厚い支援の具体が必要と感じた。

▽市独自の支援にきめ細かさがありよかった。実態をつかんだ対応だった。

いきいきトークの内容は、市のホームページでも公開しています。

問い合わせ先 政策企画課
(☎437194)